

## 2019年度前期 「授業評価アンケート」 報告書

	授業名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	社会福祉 (4・5・6組)	担当科目の中では、資格取得のための必修科目であると同時に、今年度よりスタートした「新カリキュラム」では「卒業必修」として位置付けられたため選択した。さらには、保育士資格の基本原則となる科目であるため、授業を通じて学生の受ける印象を確認したいため選択した。	中間アンケートでは良い点として、「分かりやすい授業。」や「体験談を聞いて勉強になる。」「社会で役立つ知識を得られる。」等々の意見が多々あった。反面、改善点では「書く量が多い。」や「黒板の字が時々小さくなる。」「プリント形式にしてほしい。」などの意見をもらった。書く分量が多いと学生は感じている様だが、それ程多く書いてもらっているわけではない。しかしながら、現在の授業方法の主流であるパワーポイントを使った授業になれている学生は、配られたプリントに書き込むだけが多く体験しているため、改めて最初から書き続けることに慣れていないためと思われる。アンケートの翌週には、指摘のあった改善点に対してひとつひとつ返答した。	授業の工夫については、9割以上の学生が、賛同してくれている。ただし、予習・復習については、逆に8割以上の学生が1週間で1時間未満を選択している。より多くの予習・復習に時間を割いてもらえるのが理想であるものの、実態としては、必修科目が数多く設置されているため、1週間で1時間未満も致し方ない面も考えられる。成績は1年生全体で「秀」が17名(20.5%)、「優」が23名(27.7%)、「良」が19名(22.9%)、「可」が12名(14.5%)、「不可」が12名(14.5%)の内訳であった。数値的には例年通りであり、高得点をとれる学生とそうでない学生の格差がやはり存在する。到達目標については、7割の学生がほぼ到達できたとしている。今後の課題は例年と同様にはなるが、習熟度の違いが明白であるため、授業レベルの基準を調整しながら授業を展開していきたい。
保	幼児臨床心理学 (3・4組)	比較対照のため。	板書の量が多い、グループワークをしてほしいとの改善点があった。一方向からの授業になりがちなのは確かなので、コメントペーパーや小テストなどで学生の理解度をみる工夫をした。グループワークも試みた。	実際の成績よりも学生の自己評価の方が高い。(回答率が低いので回答した学生に偏りがあるのかもしれない)理解が不十分な学生に対しては問いかけ、フィードバックのやりとりを増やすなどさらに工夫を重ねる必要があったと思う。
保	幼児臨床心理学 (5・6組)	出席率が高く活気のあるクラスであるが、真面目な学生と脱線しがちな学生の混在がしばしば授業の進行を妨げることがあり学生の理解にどのような影響を及ぼすか気にかかっていたため。	教員の印象とは反対に「静かな授業」「落ち着ける」「説明が分かりやすい」とのコメントが多く、改善を求める点は「板書が多い」であった。	分かりやすい授業は学生から考える機会をうばう側面もあり、それが成績にも表れているように思われた。学生がすぐに納得できないような、ひっかかるような問題提起、そこから始まる思考の過程を援助する授業展開が必要だった。今後の課題としたい。
保	幼児と図工Ⅰ	全クラスで実施した。	導入、発話、内容等の評価が高かったため、そのまま継続できるように心がけた。	改善していたかの問いに何人か「そう思わない」とあったのが気になるが、概ね高評価なので、今後も学生の様子を見ながら軌道修正していきたいと考えている。
保	幼児と図工Ⅰ	全教科で実施した。	改善していたかの問いも何人か「そう思う」という評価が多かったため安心した。できるだけ、表現することへの抵抗をなくすために、説明、言葉かけ、感想プリントへの返事を丁寧に書くように心がけた。	授業者としての評価と、学生本人の到達度評価がほぼ一致していたので安心した。今後も引き続き、学生の様子を見ながら、対応していきたいと考える。
保	日本国憲法と人権	担任クラスを含むクラスを選んだ。	明確な要望はなかった。授業内での「学生の発言回数を減らしてほしい」という要望については、学生参加型の授業を目指していること点については、授業の初めに説明をしている。「マイクを回すのが嫌だ」「発言するのが嫌だ」という意見についても、自分の意見をまとめた発現することの大切さは、授業内においても、伝えているが、やはり学生にとっては、負担感があるのだと再認している。質問の方法等を工夫していきたいと思う。	シラバス達成状況は、おおむね良好と考える。授業名「日本国憲法と人権」から、とっつきにくいイメージを持つ学生も多く、生活に根付いた事例や子どもの人権に関する内容を、学生が興味を持ち、さらに理解を深められるように今後も工夫していきたい。
保	特別支援教育総論Ⅰ	担任クラスを含むクラスを選んだ。	「スピードが早い」という意見が2人あった。授業内容が多くなってしまいうこともあり、授業の学生の様子を見ながら、進行するように努めた。また、授業内容の精選を行い、シラバス進行と調整しつつ、学生の負担のないように行った。	シラバスの達成状況は、おおむね良好と考える。特別支援教育総論で取り扱う、配慮を要する子どもとの触れ合う経験が少ない学生も多く、事例を含め、イメージを持ち、理解しやすいように努めたいと思う。また、学生が実習経験と関連させながら、演習授業であるので、実践力を習得できるように、授業を工夫していきたい。

	授業名	1. この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	幼児と音楽Ⅰ (3・4組)	音楽研究室が担当する授業で唯一1年生全員が履修し、一番多くの非常勤講師が担当することから。また、学生の本音、到達目標の達成に対する自己評価、時間外学習にける時間の実態を一番知りたい科目だから。	中間アンケートの結果を担当教員全員が閲覧し、学生が感じている問題点を共有した。	学生の到達目標達成度と実際の最終評価の分布を見比べてみると、学生の自己評価の方が実際の評価より若干高めではあるが、ほぼ客観的に自己評価ができています。時間外学習に充てた時間は、同一科目の他クラスと比べる一番多かったです。しかし、初心者が現場で使えるピアノをマスターするためには毎日最低でも30分はピアノに向かってほしいところである。学生に時間外の練習がとて大変なことをもっと啓蒙していきたい。
保	幼児と音楽Ⅰ (5・6組)	音楽研究室が担当する授業で唯一1年生全員が履修し、一番多くの非常勤講師が担当することから。また、学生の本音、到達目標の達成に対する自己評価、時間外学習にける時間の実態を一番知りたい科目だから。	中間アンケートの結果を担当教員全員が閲覧し、学生が感じている問題点を共有した。	学生の到達目標達成度と実際の最終評価の分布を見比べてみると、客観的に自己評価ができています(学生の自己評価と実際の評価の分布がほぼ一致している)ように見える。初心者が現場で使えるピアノをマスターするためには毎日最低でも30分はピアノに向かってほしいところだが、時間外学習にかけた時間の実態は、残念ながらそれには及んでいない。学生に時間外の練習がとて大変なことをもっと啓蒙していきたい。
保	幼児と環境 (4・5・6組)	この授業は、前期の担当科目の中で、授業準備や参考資料等の作成に時間をかけ、そして力を入れている授業科目であるので、教員として学生の評価をぜひ知りたいと考え対象に選びました。	授業で毎回写しているパワーポイントについて、少し次に進めるスピードが速いという意見が若干あったので、要点をノートする為の時間を長めにし、より確実に書き留めることが出来るように改善・工夫しました。	回答から見て全体の約6割弱の学生が到達目標をよく達成することが出来ていて、そして約3割の学生もほぼ到達目標を達成することが出来ていると考えられます。そのような達成状況のなかですが授業の改善・工夫が一層必要と考えています。
保	幼児と環境 (1・2・3組)	この幼児と環境の授業は前期の担当授業科目の中で、とりわけ授業準備や参考資料等の作成などに時間をかけて力を入れている授業科目であるので、学生の評価をぜひ知りたいと考え対象に選びました。	身近な草花や昆虫、また小動物の視聴覚教材の活用が「分かりやすく参考になる」等の意見が多くありました。それを受けて、さらに分かりやすく理解しやすいDVD等の教材研究に取り組み、工夫・改善に努めました。	回答から見て全体の5割超の学生が、よく到達目標を達成することが出来ていて、そして同じく4割の学生が、ほぼ到達目標を達成することが出来ていると考えられます。クラスによって達成状況のバラツキが少なからず出ている結果になっているので、その点については今後の課題として、授業の工夫・改善が必要であると捉えています。
保	日本語表現 (スタディスキル含む)	本科目が主な科目であるため。また平均的なクラスであると考えられるため選んだ。	前半と後半では学修する主な内容が異なるため中間アンケートを受けての授業改善・工夫といったところまでは行えていないが、ゆっくり進行することを心がけた。	アンケート結果と学生の成績から見たシラバスの到達目標の達成状況の傾向は似ているが、学生の到達度の自己評価がやや上回る結果となっている。いくつかの到達目標が平均的に成績に反映されるわけではないため、このような結果となったと考えられる。文章を読む・書く・まとめる、話しを聞いてメモをとる、考えるなどを苦手とする学生が比較的多く、また扱う内容も多岐にわたる傾向にあり、授業内容としては不完全燃焼のようになったきらいがある。学修方法の工夫をしていきたい。
保	教育実習指導Ⅱ	本授業の学生の評価を知り、教育実習の事前事後指導として学生に有効であるか確認し、授業改善に役立てるため。(教育実習指導Ⅱのアンケートであるが、教育実習Ⅱと間違えて回答している学生がいる。両方合わせると41名(85%)の回答率となる。)	中間アンケートでは特に要望はなかった。実践的な内容が役立つと回答している学生が多かった。そこで、より実践的で主体的対話的な学びに繋がるよう、グループでの設定保育研究や模擬保育の教室確保、反省会を学生主体で進行できるよう、シナリオをこちらで作成するなどの工夫をした。	アンケートの到達度の自己評価ではほぼ8割の学生がB以上の評価を出している。成績も大方の学生が良以上の成績となり、到達目標を達成できたと推察される。今後は、授業内容の理解が低い学生に対して個別に対応する必要があると感じている。
保	幼児と言葉	初めて担当する科目で、授業内容の理解や授業の進め方など学生がどのように感じ授業評価をしているか知り、授業改善を行うため。	中間アンケートでは、配布プリントの文字が小さくて見えにくいという意見が多数あったため、文字を大きくし、見やすいプリントにする工夫をした。	アンケートの到達度の自己評価と成績を見て、授業の到達目標の達成度が高いとは言えない。今後は、学生が授業内容の面白さを実感し、主体的に学び、達成度が上がるような授業の工夫を行いたい。今年度の反省を元に次年度は学生が興味を持って聞けるような具体的事例や視聴覚機器を活用した授業にしていきたい。

	授業名	1. この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
保	公衆衛生学	まず、今年度に初めて担当する科目であったので、授業が受講生にどのように受け入れられたかを知るため。また、私自身がライフデザイン総合学科での授業を担当するのが初めてであったため、自由選択・履修する受講生に当該授業の狙いがどのように届いたかを把握することであった。	中間アンケートで得られた要望を考慮して、視聴覚教材の見易さを改善すべく席替えを行った。その後、この席替えで、焦点が合わず見づらさを経験している学生がいることが判明したため、後半は、補助プリントを配布するなど、受講生に配慮した。	アンケート回答は、当日の出席者全員から得られた(94.3%)。当該科目は、学ぶ範囲が広いと、各項目を日常生活に結び付けて理解できるよう、エピソードを交えて説明したつもりであるが、問2「積極的な授業参加を促すための工夫」において、33%の学生が“あまり思わない、思わない”と答えており、それを反映して、「到達目標の達成度」が、A:27%、B:42%、C:18%、D:9%、E:3%という結果に終わり、さらなる授業改善の必要性を認識した。
ラ	乳児保育	当該科目は、担当2年目であり、昨年度の授業アンケートを参考に、授業内容の改善に努めたので、それが今年の受講生にどのように受け入れられているかを把握するため、今回の対象とした。	当該科目は、今年度は、授業開始時に小テストを実施しており、それに対する要望が数人からあった(実施方法や設題の出し方)が、努めて改善したところスムーズに実施できた。	問2「積極的な授業参加を促すための工夫」において、33%の学生が“そう思う”と答え、55%が“ややそう思う”と答えていることから受講生の満足度は高いと判断できた。しかし、問4「到達目標の達成度」は、A:24%、B:42%、C:21%、D:3%、E:9%という結果となり、前述内容と一致せず考えさせられた。通年科目なので、小テストの内容などを改善してみたい。
保	子供の保健Ⅱ(3・4組)	3クラス中で受講生が36名と多く、的確な意見が聴けると思った、また、授業中も積極的に演習に参加し、発言も多く見られ元気の良いクラスだったため。	授業中の「配布資料が見にくい」という意見が若干あり、資料の余白を多くするように心がけた。また、板書の字を丁寧に書くように心がけたが、説明が早くなってしまうくらいがあり、今後留意すべき点と言える。	シラバスはほぼ達成できたと思われる。しかし、3クラスの成績結果から判断すると、「この授業の予習・復習等に費した時間」が30分未満が59%、30分から1時間未満が23%となっており、多くの学生が主体的にかかわる学習課題を増やしてゆかなければならないと考える。
保	子どもの食と栄養	保育士資格取得のための必修授業で、食育に必要な知識を確実に習得させたいと考えているが、90分2コマ続きと1回の授業時間が長いこともあり、学生のモチベーションの維持に苦慮している。この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由は、学生の意見を知り、要望を取り入れた授業改善を行い、その効果や学生の受け止め方を知りたいと思ったからである。また、受講人数が多いので、学生の授業に対する意見や感想、要望を知るには、アンケートが有効と考えたから。	・複数見られた意見「授業の進め方が早い。」に対しては、ただ単に授業の進行スピードを遅くするのではなく、常に学生の学びの状況を目で見て、時には声をかけて対話をしながら確認し、授業を進めるよう改善した。・「プリントの書き込み箇所が多い。」に対しては、プリントの書き込み箇所を見直して減らすとともに、資料を配布して解説を行ったり、資料プリントを元に質問事項への記述を課題としたり、学生が自ら学びやすい方法を取り入れるなど、改善を行った。	70%以上目標を達成できた学生が77%、80%以上目標を達成できた学生が約半数(46%)であった。この結果から、今回の授業改善への取り組みは、学生の評価以上に実際の改善効果が高かったといえる。しかし、この授業を担当してきたこれまでの経験から、学生の状況は受講クラスごとに異なるので、それぞれに合わせた改善の取り組みが課題であると考え。今後も、学習目標到達度を維持できるよう中間アンケートの分析による授業改善に継続して取り組みたい。
保	子どもの発達と絵画	座学より、生徒とのコミュニケーションを図らなければならないから。	授業の到達目標に近づくため、集中・楽しくを心がけました。	やや到達できたと思う。
保	子ども文化Ⅱ		楽しく将来に役立ち、丁寧にわかりやすく、恥ずかしくてもちゃんと聞いてくれるし、自作パペットも愛着がわく、そして何よりも楽しい・・・という中間アンケートの回答をいただきました。私自身も、どんどん成長していく生徒さんたちを見るのが毎回楽しみでした。そして、意欲をもって、授業に取り組んでいかれる姿が嬉しくて授業を進めていきました。	おおむね 到達目標を達成できたと思います。北条保育所への公演も生徒さんたちの大きな成長と転機になったことと思います。今後の課題としては、私自身が意欲をもって 熱い授業をすることです。
保	保育原理	大半の学生はしっかり授業内容に耳を傾けていたが、数名居眠りをしている学生がいたため。また、もう一方のクラスの学生より、授業を受けているときの反応が若干薄いと感じたため。	ホワイトボードの字が読みづらいとの指摘を受け、なるべく大きく、丁寧に書くよう心掛けた。また、きちんと理解できているかをその都度問いかけながら板書するようにした。また、早口で聞き取りにくいとの指摘を受けたので、ゆっくり丁寧に話すように心掛け、こちらに関しても、その都度理解ができているか、確認しながら授業を進めていった。	私の説明不足やスムーズに授業を進行できなかったところも、学生自身が指摘してくれ、授業と一緒に作っているような雰囲気があったため、毎回の授業のねらいも確認しながら進めていくことができ、ある程度の到達目標は達成できたのではないと思う。しかし、家庭での予習・復習を課すことが少なかったため、課題内容の見直しなどを行うことで、学生が持っている能力をもっと引き出したのではないかと反省した。

	授業名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
保	子ども文化Ⅲ (WEBデザイン)	唯一の担当授業であるため。	内容について難しいと感じている学生がいたようだったので当初予定から一部内容を変更し、わかりやすくなるように工夫した。	課題に対して真面目に取り組んだ大半の学生については、到達目標を概ね達成できたと考えている。
保	乳児保育Ⅰ	特に理由はございません。乳児保育Ⅰはニクラスですので、授業後半でアンケートをしました。	・黒板の字が小さいなどの意見から 配布資料や教室環境を見直し学生が見やすい授業に工夫改善しています。・具体的事例が学生の理解につながっているので 事例をまじえながら、保育の理解を深めるよう更に工夫しました。	・小テスト レポートで基準に達していない学生に対し、毎時間課題として確認が必要。・事例紹介でより具体的に学習が深まり最終レポートにもつながっていた。
保	カウンセリング 概論	回答人数が多かったから。	「授業中、一部の学生がうるさくて集中できない」「一方的な授業はたいくつ」等の意見・感想があったので、私語や雑談をしている学生への注意や指導をこまめに行った。そして、講義だけでなく、グループワーク等の体験学習を増やした。	中間アンケートで出された「学生の意見・要望に対する取り組み」に対しての学生の回答が、「そう思う」と「そう思わない」が半々であった。半数の学生には改善の実感がなかったようである。今後みんなが集中して参加できるような授業作りを工夫して行きたい。
保	相談援助 (1組・2組)	グループワークの発言が非常に活発で、演習科目である授業の意図を十分に把握しているから。	演習での話し合いを負担に感じる学生のため、グループワークではなく、ペアワークを導入したり、個人の意見を尊重して、個々にホワイトボードに意見を書いて発表させるなどの変化を持たせた。また、期末のレポート課題を心配する声も多かったため、課題の題意を詳細に説明し、構成については時間をかけて個別検討させた。文章作法や誤字などは学生相互のチェックを取り入れるなどして、自信をもって課題に取り組むことができるように準備した。書き込み用テキストを中心にし、毎回、正答の確認をしながら、知識を見える化して授業を進めていった。	演習では共感性が高い学生が多いことから、問題解決に向けてグループワークが十分に機能して、経験を体感できていたため、到達目標は十分に達成されている。レポート課題も知識技術に関するまとめの部分は授業内での復習もあり定着が見られたが、自己内省や自己洞察といった個人内での意識の深まりは不十分な部分である。この科目で身につけることができる知識技術が、実際の現場でどのように役立つかという想像力を働かせることが難しいという学生の理解を深めることができなかったため、授業に集中することができずにいる学生がいて残念である。
ラ	社会心理学	担当させていただいているのはこの科目のみです。	特段の変更の必要は認められなかったため、後半も引き続き、話す速さが速すぎないようにすることと、そして、授業中に挙げる例に受講生が実感しやすいものを用意することに留意しました。	シラバスの到達目標の達成状況は、試験受験者のうち、及第以上とそれ未満が半分ずつといったところでした。私の想像以上に授業内容を理解できていた受講生もいらっしゃいましたが、理解が不十分な受講生をなくせませんでした。毎回、授業の理解を簡単に確認しておりますので、その結果をもっと活用する方策を考えたいと思います。
ラ	色彩の基礎	授業出席者が安定しており、感想を得られやすいため。また基礎授業の理解度を知るため	授業のワーク作成では、個別の助言やサポートについて良いとの回答が多数あったので、引き続き実践した。その際に時間の平等性を意識的にこなした。	課題の提出物におけるシラバスの到達点は8割の生徒が達成していたが、より実践的に応用する発想が生徒に定着化できていないように感じた。学んだことを日常のファッション、インテリアなどに具体的に取り入れたり、自己の発想がうまれるようなワーク時間を今後とっていきたい。
ラ	カラーセラピー	色彩の基礎にひき続き、生徒の試験を次回にいかすため。	意見は特になしでした。	カラーセラピーは自分の意見を発言しやすく和気あいあいとした雰囲気が良い、とあるが、仲間や隣の席の人との交流を取り入れたワークでは、とたんに無口になりコミュニケーション遮断となる。チーム、ペアなどでのワークの発展が今後の課題です。
ラ	卒業ゼミ（発展）	唯一の2年生担当科目であり、学びの集大成としての位置づけの科目である。その学びに対してどのような意識で授業に臨み、どのような思いを抱いているかについて知りたかったから。	教室の環境についての意見のみがあった。具体的には教室の温度管理である。暑すぎる、寒すぎるなど。しかし北条学舎の冷房は事務室での管理であるので、授業痛にいちいち中座して変更依頼に行かねばならない。よって改善策として、授業開始までに低めの温度設置をお願いし、授業開始後、一度だけ変更依頼に行くことで、中座の回数を減らす努力をした。	学生の予習復習時間が1時間から3時間と、こちらの狙い通りであった。また授業目標達成度の自己評価も80%～89%が一番多く、63%の学生がそのように自己評価している。丁度これは成績評価比率とも相関性がある。日頃からルーブリック評価を共有しながら授業を進めてきたのも功を奏したといえる。今後も授業改善に努めていきたい。

	授業名	1. この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	日本語表現法	1年生の卒業必修科目2クラスのうちの1クラス。もう一つのクラスに比べて反応が大人しいので、学生の声を積極的に聞きたいと思ったために選択した。	教室の温度管理に注意を払った。グループワークが楽しいという多数の意見に応じ、毎時間グループワークに時間を取り、メリハリをつけた。しかし一部には苦手という意見もあるので、実施時間の長短で工夫し、盛り上がらないグループには積極的に介入、助言するようになった。	授業の予習復習について1時間前後が多数を占め、漢字学習に関する課題を設定しているのが、適切な時間ではないかと思った。しかし目標達成度90%から100%を自己評価で選んだ割合が非常に高く、61%にも上る。実際の試験結果はさほど高くはない。とはいうものの例年よりは成績は良いので、授業の狙いは達成していると考えられる。今後もグループワークなども多用しながら、学生が楽しみながら力をつける授業を工夫していきたい。
ラ	解剖生理学	初めて担当する授業科目であり、教本を使用せず、配布資料による授業をすすめたため、学生の理解度や積極性(関心度)を確認したかった。	受講生が43名のため、授業環境(教室と黒板の広さ等)について改善を図った。その結果、授業中の学生間の私語が減り、個々の学生への対応がしやすくなった。また、資料の余白が少なかったため、工夫を加えた。	学生の「この授業の予習・復習にあてた時間等」のアンケート項目では、30分未満が59%、30分から1時間未満が24%であった。学生は、当初授業が難しいと言っていたが、試験結果では成績優秀者(90点以上)が約20%でと体的に学生の努力の成果がみられた。このことから、多くの学生が復習に時間を割いたと考えられる。解剖生理学は、専門用語が多く、自分の体のこととして理解を深めるには、もう少し多くの時間があれば考える。
ラ	医療事務Ⅰ	この科目は医療事務エリアを学ぶ学生が1年前期で必ず履修する科目であり(卒業時に取得する資格の関係上)、そのため履修する学生が多い上に医療事務エリアの学びの基礎となる内容であるため、アンケートを取って学生の意見を聞いてみたいと考えた。	「授業の進むスピードが速い」という意見がいくつかあった。毎年学生から聞く意見のひとつであるが、15回の授業で進まなければならない範囲を全うするためには致し方ない部分もある。毎年様々な点を工夫しているが、今回は例題の数を減らし、一つの問題にかかる時間を多めに取るようにした。数をこなして覚えるということもあるが、曖昧にしか理解できない問題を数多くこなすより、数は減っても確実に理解できるほうが基礎力をつくという考え。	到達目標の「診療報酬請求事務における基本的知識と点数算定の技能及びレセプト作成技術を習得する。」を評価するための定期試験では、「良」以上の評価が約50%。つまり、到達目標を達成している学生は約半分ということになる。例年並みの結果ではあるが、目標としては7割程度の学生を「良」以上としたい。次年度の試みとして到達確認を細かくするために、定期試験ではなく、小刻みに授業内テストを行い、評価を積算していく方法に変更を検討中。そのほうがついていけずに置いていかれる学生を減らせるのではないかな。
ラ	医療事務総論	「医療事務Ⅰ」同様、医療事務エリアを学ぶ学生が1年前期で必ず履修する科目であり(卒業時に取得する資格の関係上)、そのため履修する学生が多い上に医療事務エリアの学びの基礎となる内容であるため、アンケートを取って学生の意見を聞いてみたいと考えた。	「書く作業を増やしてほしい。寝てしまうから。」という意見を受けて、レジュメの内容を減らして、ノートやテキストに記載する指示を増やしてみた。確かに、書くためには起きていなければならない、寝る学生は減ったように感じた。ただ、それが学修効果に繋がっているまかどうかはわからない。その日の授業に基づいた問題を授業時間の最後に行っていたが、その時間も増やした。	この授業の到達目標は「医療事務の概要、医療機関の組織、医療保険制度、診療報酬の仕組みについて理解する。保険の種類と患者負担率、保険診療について説明することができるようになる。」であり、これを評価するための定期試験では、「良」以上が80%に達している。評価上多くの学生が到達目標を達成しているといえる。断定はできないが、「書く」作業を増やして、授業を聞いている学生が増加したことが功を奏しているのかもしれない。次年度の授業においては板書させる内容を更に吟味し、単に書かせるのではなく、有意義な「書く」作業となるようにする予定。
ラ	キャリアデザインB	就職支援対策の内容の含んでいる。また、実習を多く取り入れているので、今後の改善や創意工夫のため。	学生のコミュニケーションの能力の向上のため、協調性、リーダーシップ、積極性等が向上できるように多くの学生との対話を多くして、学生全体で考えて結論にいくように務めた。	そう思う、ややそう思うで全体の72%に達している。今後はさらに全体として90%以上がそう思うようになれるように授業内容を創意工夫して昨年度以上に努力をしていく。
ラ	キャリアデザインA	就職支援対策の内容の含んでいる。また、実習を多く取り入れているので、今後の改善や創意工夫のため。	学生のコミュニケーションの能力の向上のため、協調性、リーダーシップ、積極性等が向上できるように多くの学生との対話を多くして、学生全体で考えて結論にいくように務めた。	そう思う、ややそう思うで全体の72%に達している。今後はさらに全体として90%以上がそう思うようになれるように授業内容を創意工夫して昨年度以上に努力をしていく。
ラ	情報倫理	昨年から継続して授業評価を実施していること。また、パソコンによる論述という演習的内容も含むため、評価を通して授業内容の充実を図りたいことからアンケートの対象といたしました。	改善の希望として「お昼なので眠たくなる」「前のスクリーンがたまに見にくくなる」という2点が寄せられた。眠たくなるについては、活動的内容を適宜設定することで対応した。スクリーンが見にくいという要望については、配色、文字サイズ、教室中央のモニタ表示により対応した。アンケートの結果からは、それらの対応により一定の成果が見られたものと判断できた。	シラバス達成率は、A(90~100%)が5%、B(89%~80%)が47%であった。E(59%以下)と回答する学生はいなかったが、D(69~60%)と回答する学生が2名(11%)見られることから、学習内容や課題について再検討し、それらがシラバス記載の目的の達成へと接続できるよう授業設定全体で充実を図っていきたい。

	授業名	1. この科目(クラス)を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	表計算演習Ⅰ (Excel)	昨年から継続して授業評価を実施していること。また、演習として基礎的な内容と比較的難しい実技内容も含むため、評価を通して授業改善を進めていきたいことからアンケートの対象といたしました。	中間アンケートでは、改善要要望はなかった。各自のペースに沿った課題解答時間の設定について学生たちが手ごたえを感じていることから、その時間を確保できるよう心掛けた。	シラバス達成率は、A(90~100%)が42%、B(89%~80%)が42%で概ね想定通りの達成率であった。ただ、E(59%以下)と回答する学生が1名いたことから、課題設定と難易度について改めて分析し、次年度へとつなげていきたい。
ラ	社会的養護内容		中間アンケートの結果をうけて、少数意見や改善点も含め、アンケート結果を授業の中で開示した。その上で、講師の思いや考えも伝えたいと、少数意見も大切に扱っていききたいことを伝えている。 ・眠気をさそうことが多いようで、配布プリントに書き込めるようにして欲しいという声をいただいたので、アンケート後の配布資料は穴埋めを増やした。 ・学生との距離感が近い。なれなれしいのではないかと声をいただいた。講師としては、近い距離で参加型で共に授業を創っていききたい思いをもっていることは、最初の授業から伝えていたことであり、その思いは継続したいこと伝えたいと、一方で少数とはいえこういった意見が出ることは受け止め、その後は少し距離感が近くなりすぎないような意識も持って講義に当たった。 ・映像を使用したり、参加型を意識しての授業を行ってきたが、眠気を誘う面も否めなかった。絵本の読み聞かせや、手遊び、ゲーム、小喃なども取り入れて工夫はしている。	15回の授業を通して、映像や参加型で工夫して講義を行ってきた。映像などによっては、眠気を誘う状況にしてしまったことは否めないが、社会的養護の実際を触れる中、提出物、定期試験など後半になるほど、学生自身に気づきや、考え方の幅、奥行きと言ったところに成長が顕著に見られたことには、一定の達成感、満足感を感じている。定期試験では、持ち込み資料に記載されている内容は良い出来であったが、口頭のみで伝えた内容についての解答は、芳しくないでであったため、その辺りが今後の課題である。
ラ	テーブルコーディネイト&テーブルマナー	授業終了後、今回の最終評価についてお話をする機会がないので、選択しました。	アンケートに、提出物を受け取ってもらえないことがあるが、なぜかとの質問がありました。個人的な内容ではありましたが、課題や提出物が明らか未完成(空欄や色塗り等できていない)のものは、受け取れないことを全員に周知したいと考え、授業内に回答しました。「皆さんが社会に出た場合、こういうものは、通用しない。」と補足しました。	この授業の到達目標は、講義と実習を行うことにより、知識を身につけるとのことでした。確かに、最後の一人ずつのテーブルコーディネート実習は、思っていた以上によくできていたが、授業内で行った評価対象の小テストが、テスト範囲を伝えたにもかかわらず、点数がとれていなくて、最終評価につながらなかったのが残念でした。今後は、その都度授業内で、確実に覚えなくてはならないことを伝えていく必要があると思います。
ラ	アロマセラピー (演習を含む)	このクラスのための担当であるため。	中間アンケートから読み取れる学生からの要望は話しを短く実習の時間を長くして欲しいという事のみであった。プラスの表現では、実習があること。説明がわかりやすい、ということ。これを受けて、改善の工夫としては、講義の要点を簡潔に伝え、実習は行うのに十分な時間を取った。とはいえ、学ぶべき内容は幅広く、時間削減は難しい。中間アンケートのあと、上記のことを学生に伝えるとともに後半は前半に比べて実習時間が若干長いのでその旨も伝え、さらに実習の体験などについて学生とのコミュニケーションを図るようにした。	これまで授業時間内にアンケート回答の時間を取っていたが今回は、休憩時間の前にアンケートに回答するようにと伝えるだけにしたためか回答率が低かった。そのため、アンケート結果を参考にすることは出来ない。ただ、レポート試験の回答から考えて、「安全な使い方を習得する」という基本的な目標は到達出来たと言える。今後の課題として、学生がより積極的に授業に臨めるようグループワークや、香りのゲームなどを取り入れる時間のゆとりを持ちたい。
ラ	調剤請求	単一担当です。	要望は進行速度の調整という一点のみでした。確認したところ、理解できない部分の繰り返しだと判断しましたので、再確認したい箇所の聞き取りを行い、次回授業において再度説明をする時間を取るようにしました。	レセプト作成に多くの時価が必要とされ、授業内容もそこに重点をおいていますが、資格試験には学科も含まれます。シラバス到達目標90%とは学科内容が満足出来なかったと考えられます。今後の課題は時間配分を見直し学科についても満足できる講義内容にすることです。
ラ	英語 (英会話A)	全体的にクラスの反応がよさそうだと考えたから。	授業に集中していない生徒もいるせいか、うるさくなりがちな点を相手の気持ちを考えることをしてみようと、提案したり、演習をする際にも興味のある内容を入れて集中してもらうようにした。	最低でも半時間程度の学習時間は確保しており、授業での説明も分かりやすくするよう心がけ、内容も基本的なことを中心に行っていることもあり、到達目標の達成感につながったのではないかと考える。今後も、分かりやすい説明をしながら、達成感を付けてもらい、自信をつけてもらえるようにしていくつもりです。

	授業名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。(今後の課題も含む)
ラ	ICDコーディング 実務演習Ⅰ	ICD10の勉強にどこまで理解されたのか確認をしたい為。	「先生の言っている意味がわからない。文字が読めない」との声を聞き以下の取り組みをしました。1) 配布資料の疾病等にルビを付与した。2) 疾病について、理解しやすいように絵柄、写真等を用いて説明した。3) 授業中、なるべく一人一人に声をかけるよう心掛けた。4) 教科書テキスト等覚えなければならぬところは写し書きを宿題課題とした。5) 授業中、小テストを行い習得状況を小テスト等で毎回確認しながら授業を進めた。	全員素晴らしい成績であった。目標通り、進める事が出来た。後期は、難しい弾き方ルールも習得しなければならない。宿題課題は、全員きっちりとしてこられるので、課題提出を求めながら授業を進めていきたい。
ラ	医療事務Ⅲ (DPC含む)	DPC制度をどこまで習得されたのか確認する為。	「先生の言っている意味がわからない。文字が読めない」との声を聞き以下の取り組みをしました。1) 配布資料の疾病等にルビを付与した。2) DPC制度について、理解しやすいように絵柄、写真、その他資料等を用いて説明した。3) 授業中、なるべく一人一人に声をかけるよう心掛けた。4) 教科書テキスト等覚えなければならぬところは写し書きを宿題課題とした。5) 授業中、小テストを行い習得状況を小テスト等で毎回確認しながら授業を進めた。	全員素晴らしい成績であった。勉強が不得意とされる生徒さんも宿題課題提出を始め暗記すべきものもきちんと習得された。シラバスに対して難易度を少し下げ、実社会で困らない内容に変更した。
ラ	色彩の基礎Ⅰ	人数が多く、質問や要望を口にできる子と出来ない子の差が大きいため、それぞれの意見を聞くため	アンケートでは特に要望はなかったが、板書の文字がかすれて見えにくいという声があったのでペンを変え、字を大きく書くようにしました。	課題の提出率は悪くなくシラバスの到達はできたと思いますが、講義のなかで生徒の理解が悪いように感じた。課題などの時間に個別に手元で個別に説明などを行う時間ももうけたが、理解があまり進んでいない。今後は授業に意欲をもつてのぞんでもらえるよう実生活での活かし方なども取り入れていく。授業開始時に前回授業の復習や、一つの単元をほりさげる時間をもつようにする。
ラ	色彩の基礎Ⅰ	生徒の声を聴くため。	特に要望はなかったが、講義後の復習ワークの時間にコミュニケーションをとりながらそれぞれが思っていることを聞いてもらった。	真面目でもくもくと取り組むクラスだったため進行はスムーズに進んだ。ワークをすることで理解が進んだように思う。
ラ	スポーツⅠ	特に理由はないが、担当するクラスの中で、一番目にあたるから。	遠いや暑いなど、内容より施設に対する意見が多かったため、そのまま授業を行った。	アンケート結果から見ると、みんな真面目に、また楽しく授業が出来たと思う。学生の実技能力的には、時間が短く、大きくアップしたとは思えないが、満足できると思う。
ラ	ウェブデザインⅡ	当該学期で担当している唯一の科目であるから。	板書とスクリーンの提示のタイミングと切り替えの速さについて受講者から若干の指摘があった。これに関して改善に向けて意識した。	授業中に実施した課題制作の結果を見ると、授業の目標の達成度は概ね良好だったように思われる。今後は、制作課題に受講生の独自性がもう少し出るように工夫をしたい。
ラ	英語 (英会話)A[い]	前期担当クラスの一つであるため。前期は2クラス担当しておりますが、どちらのクラスでも実施しています。	特に授業運営などに関して改善・工夫した部分はありません。中間アンケートでは特に学生側からの要望はなかったためです。しかしながら、「中間アンケートで出された学生の意見、要望に対する取り組みは見られましたか。」の質問に対して、「あまり思わない」と答えた学生が7人もいるのは教員側からすれば納得し兼ねる結果でした。アンケートを実施するからには、誠実に答えていただきたいと存じます。	今年度の当クラスの成績評価は6割以上の学生がS・Aの評価を得ることができています。アンケート回答者の6割以上がシラバスに示されている到達目標を80%以上達成できたと感じているようですので、学生の自己評価と実際の成績がきちんと対応しているのではないかと考えています。また、今年度は前年度まで以上に課題を出したり、定期的に小テストを実施したりするなどして、授業外の学習時間の増加を狙った取り組みを行ってききましたが、まだまだ1週間あたりの学習時間が少ないようなので、いかに学習時間を確保してもらうかは引き続き今後の課題かと思われま

	授業名	1. この科目（クラス）を今回の授業評価アンケートの対象に選んだ理由について述べて下さい。	2. 中間アンケートの結果を受けて、授業を改善・工夫したことについて述べて下さい。	3. 授業評価アンケートの結果と学生の成績から見た、シラバスの到達目標の達成状況について述べて下さい。（今後の課題も含む）
ラ	英語 (英会話A)[ろ]	前期担当クラスの一つであるため。前期は2クラス担当しておりますが、どちらのクラスでも実施しています。	授業や学生に求めることが「厳しい」ということをよくアンケート等で見られるので、より雰囲気よく授業をすることを心がけました。学生たち自身も当方の授業スタイルやキャラクターのようなものをだんだん理解してくれるようになったように思います。別の感想を書いたもらった際、一部の学生が「この授業では当たり前前のを当たり前にしなければならない」と回答してもらったように、なぜ「厳しい」のかなど理解してくれた学生も多かったように感じました。全員に向けて叱ったり、注意をしたりすることは個人的にもあまり好きではないので、後半の授業運営は総じてよかったとは思いますが、取り組みがよくない学生がさらに悪くなる部分もあり非常に難しく感じました。	アンケート回答者の多くの学生がシラバスに示されている到達目標を80%以上達成できたと感じているようです。全員がアンケートにきちんと答えたわけではないので、判断が難しいですが、学生の自己評価と実際の成績がきちんと対応しているのではないかと考えています。また、今年度は前年度まで以上に課題を出したり、定期的に小テストを実施したりするなどして、授業外の学習時間の増加を狙った取り組みを行ってきましたが、まだまだ1週間あたりの学習時間が少ないようなので、いかに学習時間を確保してもらおうかは引き続き今後の課題かと思われます。
ラ	子どもの食と健康	前期に担当させていただき科目がこのクラスでしたので、今回のアンケート対象と致しました。	2コマ続きの授業で広範囲であるため、授業内容について重点やポイントとなる所を教えて欲しいという要望がありましたので、授業内でその点に触れるように致しました。	中間アンケートの結果を受けて授業の改善、工夫が見られたかについては、ほとんどの学生から満足度が得られたことを嬉しく思います。しかしながら成績を見ますと、授業の理解度の思わしくない学生も見受けられました。今後の課題と致しまして、学生の更なる理解度向上に努めたく思います。
ラ	医療事務 コンピュータⅠ	この授業は、医療事務職の業務にとって最も欠かすことができない能力を習得する授業の1つです。授業では、診療報酬請求の基礎知識と、正確な入力操作及びスピードが求められるため、他の授業に比べて学生の能力の格差が顕著となり、講師が授業を組み立てていく上で非常に難しい授業とされています。言い換えれば、講師は非常にやりがいがある授業であると言えます。受講したすべての学生が、医事コンを正確にマスターし、確実に実践力が身につけられることを目標とし、この授業を選びました。	この授業の進め方は、個々の学生により入力スピードや理解度が異なるため、最初に事例の診療内容についてスライドで詳しく説明をし、理解したうえで、みんなと同じペースで入力する方法を取り入れました。その際、一番入力が遅い学生に基準を合わせて進めていくよう心がけました。特に、トラブルを未然に防ぐため、助手の先生が常にラウンドすることで入力状況を確認します。このクラスは、受講生6名と少ないため、授業はスムーズに進められ、中間アンケートにおいても学生からの意見や要望はありませんでした。しかし、他のクラスの一部の学生から、進行するスピードが早いとの要望があったため、後半は、よりゆっくり進めるよう心がけました。	実技試験の結果では、6名の平均点99点と全員がS評価となり、高い成果が得られました。出席率も平均98%と授業への意欲も見られました。到達目標をみると、A:33%、B:50% C:17%となり、実技試験と学生の意識との乖離が若干みられました。今後は、スキルの習得とともに、高い満足度が得られるよう改善していきます。
ラ	医療事務 コンピュータⅠ	この授業は、医療事務職の業務にとって最も欠かすことができない能力を習得する授業の1つです。授業では、診療報酬請求の基礎知識と、正確な入力操作及びスピードが求められるため、他の授業に比べて学生の能力の格差が顕著となり、講師が授業を組み立てていく上で非常に難しい授業とされています。言い換えれば講師は、非常にやりがいがある授業であると言えます。受講したすべての学生が、医事コンを正確にマスターし、確実に実践力が身につけられることを目標とし、この授業を選びました。	この授業の進め方は、個々の学生により入力スピードや理解度が異なるため、最初に事例の診療内容についてスライドで詳しく説明をし、理解したうえで、みんなと同じペースで入力する方法を取り入れました。その際、一番入力が遅い学生に基準を合わせて進めていくよう心がけました。特に、トラブルを未然に防ぐため、助手の先生が常にラウンドすることで入力状況を確認します。このクラスは、受講生13名と多く、入力スピードにも格差があることから、できる限りゆっくりと進めるように心がけました。中間アンケートでは、一部の学生より進行が早いとの要望があったため、後半では、よりゆっくり進めたことと、助手の先生とともに、その学生に対してより注意を払いました。	実技試験の結果では、13名の平均点94点、10名がS評価、3名がA評価となり、高い成果が得られました。出席率も平均98%と授業への意欲も見られました。到達目標をみると、A:23%、B:69%、D:8%となり、1名の学生において低い回答があり、実技試験と学生の意識に乖離がみられました。おそらく、この学生だと思いますが、中間アンケートの改善に対しても「あまり思わない」、授業への工夫に対しても「あまり思わない」と回答するなど、授業の進め方や学生指導に課題が残りました。後期授業では、さらに難易度が高い入院診療の入力となるため、今回の課題について十分に考慮し、すべて学生が、到達目標が達成できるよう改善していきます。